

わたしが生きているので、
あなたがたも生きる

使徒言行録 8 : 26 - 40
ヨハネによる福音書 14 : 15 - 21



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024 年 4 月 28 日
復活節第 5 主日

京都聖三一教会にて

今日の聖書の中から心に刻んで持って帰りたい、持って帰ってほしい言葉があります。それは今朗読したヨハネ福音書の主イエスの言葉です。

「わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。」

ヨハネによる福音書 14:19

イエスが生きておられるので、わたしたちも生きる。イエスのゆえに、わたしたちは生きることができるのです。

「わたしが生きているので、あなたがたも生きる」

こう語られるイエスに出会った一人の人のことを今日は見つけてみましょう。それは、先ほど読まれた使徒言行録第8章に出て来たエチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官のことです。

ここのフィリポはイエスの十二弟子とは別の、最初のエルサレム教会の指導者の一人に選ばれたフィリポです。

「さて、主の天使はフィリポに、『ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け』と言った。」

使徒言行録 8:26

ガザです。今、イスラエル国家の攻撃によって何万人もの人が命を奪われ、恐怖と飢餓に脅かされているあのガザです。どうか正義と平和が早く実現し、ガザの人々が安心して暮らせる日が来ますようにと祈らずにはられません。

そのガザへ下る道を、今から 2000 年も前のこと、エルサレムを出発したエチオピアの高官が馬車で進んでいました。彼は「エルサレムに礼拝に来て、帰る途中であった」(8:27-28)と記されています。

遠いナイル川の果てのエチオピアから、エチオピアの女王に仕える高官が、なぜエルサレムの礼拝に来たのでしょうか。これはもう想像するしかありませんが、この人は本当の神を求めているのだと思います。いくら地位があり財産があり、権力を手にしていても、このままでは生きて行けない。本当の生きる拠り所がほしい。そういう激しい求めが、彼の中にあっただのではないのでしょうか。

初めて参加したエルサレムの礼拝を彼がどのように感じたかはわかりません。けれども彼は大事なものを手に入れました。それは聖書です。預言者イザヤの書の巻物。当時の地中海世界の共通語はギリシア語でしたから、彼が手に入れたのはヘブライ語からギリシア語に翻訳されたものであったかもしれません。

「彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。」8:28
聖書の箇所はこれです。

「彼は、羊のように^{ほふ}屠り場に引かれて行った。
毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。
卑しめられて、その裁きも行われなかった。」8:32 - 33

おそらくは流暢にではなく、ゆっくり、一語一語大切に発音して、その意味を汲み取ろうとしていたでしょう。何かそこに書かれている人物のことが気になって仕方がないのです。

「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。」

イザヤの書に書かれているその人は、自分が殺される場所へと引っぱられて行きます。

「毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。」
抗弁することもなく、沈黙を守っています。

「卑しめられて、その裁きも行われなかった。」

その人は卑しめられた。辱めを受け、まともな裁判もなされなかった。

「だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」

この人は最後には自分の命を取り去られた。イザヤの書に書かれているこの人、口を開かないで、卑しめられるままに、最後は命を奪われたというこの人。神の僕らしいこの人のことが、彼は気になって仕方がありません。

そこに急に、ある人が声をかけてきました。フィリポです。

「読んでいることがお分かりになりますか」

「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と返事して、彼はフィリポにそばに座るようにと頼みました。

この人がその聖書の箇所の意味を教えてくれるかもしれません。
彼はフィリポに尋ねました。

「宦官はフィリポに言った。『どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。』」 8:34

「宦官は」と書いてあります。彼はエチオピアの女王の全財産の管理を任されているほどの高官です。高い地位と強力な権限を持っています。彼の命令に人は服従します。しかし彼は知っています。自分が陰では卑しめられていることを。いくら地位があり、お金があり、力があつたとしても、人は自分を無言のうちに卑しめている。彼が宦官だからです。自分自身も、決して満たされない喪失感を抱えています。

その彼が今、心の底から言います。「教えてください。この人はだれなのか」。

「そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。」 8:35

フィリポが、この聖書の箇所からこの宦官に告げ知らせたのはイエスのことでした。卑しめられて命を取り去られた小羊のようなイエスこそが、十字架にかけられ、死んで復活されたイエスこそが、あなたの救いであり命であると。わたしたちの苦しみと重荷を負って死んでくださったのがイエス・キリストで

あると。

エチオピアの宦官は今、イエスを知りました。この聖書の意味がはっきりとわかりました。イエスがわたしとともにおられ、わたしを引き受け、わたしを生かしてください。

フィリポの話を聞くうちに、彼はイエスについて聞いているだけではなく、イエスご自身が自分に語りかけられるのを聞いたのではないのでしょうか。

「わたしが生きているので、あなたも生きる。」ヨハネ 14:19

彼ははっきりと救い主イエスを知りました。心で信じました。けれどもフィリポと別れてしまえば、信仰を共にする人は近くにだれもいません。そこで彼は、自分がイエス・キリストのものとなったことをはっきりと目に見える形で経験したいと願いました。

「道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。『ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるのでしょうか。』 8:36

フィリポは言います。「真心から信じておられるなら、何の差し支えもありません。」

「フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。」 8:38

水の中から上がると、もうフィリポの姿は見えなくなりました。しかしこう書いてあります。

「宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあふれて旅を続けた。」 8:39

フィリポに代わって、わたしのために死にわたしのために復活されたイエスが一緒に行ってくださいます。

同じように、わたしたちの人生の歩みを、イエスが一緒に歩んでくださいます。これがわたしたちの喜びです。力です。生きる意味があります。困難も死もわたしたちを打ち倒すことはできません。

「わたしが生きているので、あなたがたも生きる」とイエスが言うからです。

祈ります。

神さま、あなたがかつて聖書をとおしフィリポをとおしてエチオピアの宦官にイエスを示されたように、わたしたちにも聖書をとおし礼拝をとおし人との交わりをとおして救い主イエスをお示してください。「わたしが生きているので、あなたがたも生きる」と言われた主の言葉をわたしたちにもはっきりと聞かせてください。救い主のみ名によってお願いいたします。アーメン